

外注化絶対反対！安全と組合無視のMTS弾劾！

3・6 勝田車両センターストへ

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
 発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史
 電話 029・227・6020
 FAX 029・227・6291

強制出向無効確認訴訟 怒りの第1回公判

2月27日、動労総連合が提訴した「外注化に伴う強制出向の無効確認訴訟」第1回公判が東京地裁で行われた。冒頭、石田亮弁護士は「千葉鉄道サービス(CTS)の幕張運転車両所では、会社が36協定を結ばずに4か月以上も超勤を強制し続けている。動労千葉組合員が36協定の職場代表となり労基署に告発すると、CTSは『3月1日から幕張運転車両所をつぶして清掃業務と同じ幕張事業所に統合する』と言い出した。動労千葉組合員を36協定の代表から降ろすための暴挙だ」と弾劾した。さらに意見陳述に立った動労千葉の長田書記長は「今回の強制出向は①本人の同意も組合の出向協定もない②外注会社には委託業務をやる技術・経験もない。出向によって成り立つ偽装請負である③業務丸ごと委託で、戻り先のない実質的な転籍である④単なる労働力の提供で、出向4要件も満たさない⑤ストで欠員が出たらJRが外

注業務を行うことで争議権も否定している⑥外注会社は違法企業であり、出向者をJRに戻せ、と強制出向の違法性と怒りを叩きつけた。そして、「このような強制出向を認めれば、労働者が戻る場所もなくなり、やむなく外注会社への転籍へと追いやられ、賃金をはじめとした労働条件が低下させられる。JRの横暴は絶対に許せない」と結んだ。

次回5月8日の第2回公判は石井委員長の意見陳述だ。裁判闘争と一体で職場での外注化粉碎の闘いに立ちよう。

MTSの安全無視と無責任を許すな！

3月1日の水戸鉄道サービス(MTS)との団交では、組合無視で労働条件の変更を繰り返してきたMTSを追及する中で恐るべき事実が明らかとなった。冒頭、「労働条件の変更については組合に説明・協議して同意を得て行うのが原則ではないのか」と問うと、MTSは「組合には説明も同意を求めることもしない。就業規則の変更

など大きな労働条件の変更に 대해서는組合ではなく『従業員代表』に説明する」と回答した。完璧な労働組合無視だ。36協定だけではなく、労働条件の変更も「従業員代表」にしか説明しないという。その代表は、所長自ら従業員をまわって同意書の署名を取って選出しているのだ。何が「従業員代表」だ！完全な違法行為である。

3月16日に差し迫ったダイ改に伴う訓練について、MTSは訓練の日程すらまだ決めていない。JRでは少なくとも前月の定期訓練で変更点は周知されていたし、それに先立って、当然全ての組合に提案があった。とんでもない安全無視であり、毎年労働災害が発生するのは必然だ。とりわけ土浦の変更点は重大だ。今ダイ改から夜間に土浦にE657が入ることになる。しかし、土浦では作業検査担当者も構内運転士もE657は未経験に等しい。工具やマニュアルすらない状態だ。MTSは「JRができる」と言うからできる」と言う。偽装請負どころか、乗客や労働者の安全に対する責任感の一片もない。

さらに、勝田車両センターでは構内運転士に「当直補助」業務が勝手に追加された。MTSは「当直と同じことをやるのが当直補助」と回答した。当直助役の仮眠時間帯に、作業責任者でもない構内運転士がJRの発注を受け作業指示するというのだ。作業責任を管理職でない労働者に負わせるなどデタラメにも程がある。組合にも現場にも何一つ説明せずにこのように重大な労働条件の変更を場当たり的にやり、事故が起これば全て現場労働者の責任にされていく。これがあらゆる外注化の実態なのだ。



平支部事務所1周年と新労組結成

2月23日、動労水戸平支部事務所開設1周年と「いわき合同ユニオン」結成大会を開催した。当日は組合員はじめ地元福島・いわきの労働者が多数参加し、門馬高弘支部長が1周年の挨拶を述べ、新たにいわき合同ユニオンの副委員長に就任する化学工場の青年労働者が新労組結成の決意表明を行った。その後会場を変え、いわきの農民や青年はじめ多くの来賓と共に祝杯を上げ大いに盛り上がった。

いや組合など平然と無視する会社だということ、それが原因で引き起こされたありとあらゆる失敗から何も学ばず、今度のダイ改でも同じ過ちを繰り返そうとしている、つまり鉄道業務に対してとことん無責任な会社だということ、そしてその痛みや責任を全て現場労働者に負わせることを何とも思わない会社だということだ。動労水戸はこのようなデタラメと安全無視の外注化に絶対反対だ。いかなることがあろうと徹底的に闘い、強制出向させられた仲間を必ず取り戻す。MTSの全ての労働者とも固く団結し、安全で明るい職場をつくらう！組合無視のMTSと、出向を強制するJRに対し、現場労働者全員の怒りを叩きつけよう！3・6ストを突破口に、ストライキを復権させよう！